



アグネスタキオン

小川隆行
ウマフリ

競馬 伝説の名勝負

2000-2004

ゼロ年代前半戦

新世紀の競馬は、
新たな伝説へ!

競馬の国際化時代に輝きを放った

最強馬たちの激走史! <全26レース+特別編>

シンボリクリスエス
クロフネ
ステイゴールド

アグネスタキオン
キングカメハメハ
テイムオペラオー

競馬 伝説の名勝負

2000-2004

ゼロ年代前半戦

小川隆行 + ウマフリ

星海社

200



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

シドニー五輪が開催され、日本シリーズでON対決が実現した20世紀のラストイヤー。競馬界に1頭の名馬が出現した。『史上最強馬』シンボリルドルフのGI・7勝に肩を並べた名馬、テイエムオペラオーである。クラシック制覇は皐月賞のみだった同馬だが、春の天皇賞・宝塚記念・秋の天皇賞・ジャパンC・有馬記念とGI・5勝を挙げるなど1年間負け知らず。年間獲得賞金10億円という偉業を成し遂げた。

取引価格1050万円の馬が、全盛期を迎えていた社台グループの高馬を打ち負かす姿を、痛快と感じたファンも少なくなかった。

国際表記に沿って馬齢が4歳馬↓3歳馬と変更された翌年、テイエムオペラオーが引退すると競馬界は再び社台グループの1強時代となり、現代に続く土台が築かれていった。マンハッタンカフェやダイワメジャー、ゼンノロブロイなどサンデーサイレンスの直仔たちがGIを勝ち続け、さらにはキングカメハメハも登場。今日の枠順に数多く登場する父馬たちの現役時代にタイムスリップしてみよう。

小川隆行

目次

はじめに 3

第1章 世紀末霸王の快進撃 2000年 9

2000年 有馬記念 テイエムオペラオー

史上2頭目のGI・7勝馬が
持ち合わせた「古き良きもの」 10

2000年 高松宮記念 キングヘイロー

批判を浴びながらのGI挑戦
ついに手にした王者の二文字 18

2000年 日本ダービー アグネスフライト

追い込み決着の名勝負！
皐月賞馬&弟弟子との一騎打ち 24

2000年 菊花賞 エアシヤカール

古馬になって未勝利に終わるも
ダービー後、世界に挑戦した準三冠馬 30

2000年 秋華賞 テイコティコタツク

20キロの馬体減をもとめせず
鞍上に初GI勝利をプレゼント 36

コラム1 インパクトを残した個性派名馬

他馬が止まって見えた！ 強豪馬を打ち破った！
最後方からの直線一気！ 42

競馬note1 距離もコースも無関係！

8歳まで逃げ続けたマグナートン 46

第2章 伝説となった幻の三冠馬 2001年 47

2001年 皐月賞 アグネスタキオン

無敗4連勝で一冠目を奪取
「幻の」と形容される世代最強馬 48

2001年 天皇賞・秋 アグネスデジタル

二刀流は結果で黙らせる

智将・白井寿昭の戦略と確信 56

2001年 宝塚記念 メイシヨウドトウ

宿命の難敵をついに撃破

4角先頭の勝負策が擱んだ執念の勝利 62

2001年 エリザベス女王杯 トウザヴィクトリー

海外帰り初戦での華麗なるイメチェン

脚質転換を成功させて悲願の初GI制覇 68

2001年 ジャパンC ジャングルポケット

「東京コースでしか走らない」

想像が証明された「打倒オペラオー」 74

2001年 ジャパンCダート クロフネ

世界を震撼させた砂上の航行

四半世紀前の伝説に肩を並べた白い怪物 80

2001年 香港ヴァーズ ステイゴールド

ラストランでのGI制覇

競馬史に刻まれる超個性派 86

競馬note 2

42年間に及ぶ名実況

詩人と呼ばれた杉本清 92

第3章 古馬の頂点に君臨した外国産馬 2002年 93

2002年 天皇賞・秋 シンボリクリスエス

3歳馬の天皇賞制覇は史上3頭目の快挙

現役最強馬への礎を築いた一戦 94

2002年 日本ダービー タニノギムレット

皐月賞↓NHKマイルC↓日本ダービー

規格外ローテーションでの優勝 102

2002年 安田記念 アドマイヤコジーン

まだまだ終わっちゃいない

共鳴する人馬の魂 108

2002年 エリザベス女王杯 ファインモーション

上がりの速い先行馬がみせた

異次元のレース&無限の可能性 114

コラム2 名牝系ランキング ベスト5

血のロマンも、競馬の醍醐味

母馬を遡れば、新たな世界が目の前に広がる！ 120

競馬note 3

ゼロ年代前半に導入された
4種類の新馬券 124

第4章 史上2頭目となる牝馬三冠馬 2003年 125

2003年 秋華賞 ステイルインラブ

派手なライバル・アドマイヤグルーヴを

破り続けた「地味な三冠牝馬」 126

2003年 日本ダービー ネオユニヴァース

デムーロ騎手にとつての「運命の馬」

絶妙なコース取りで勝ち取った日本ダービー 134

2003年 天皇賞・春 ヒシミラクル

春の盾は戦乱の時代へ

その幕開けを告げた菊花賞馬の逆襲 140

2003年 エリザベス女王杯 アドマイヤグルーヴ

女同士の絶対にはけられない戦い

超良血牝馬が三冠牝馬を競り落としGⅠ初制覇 146

2003年 ジャパンC タツ・フダンスシチー

一発勝負騎手・佐藤哲三と

成し遂げたGⅠ制覇 152

コラム3 ハルウララ旋風が巻き起こった

負け続けている馬に白羽の矢が立った

高知競馬を救ったブームの舞台裏 158

第5章 最強の大王が降臨した 2004年 163

2004年 日本ダービー キングカメハメハ

エリートVS雑草の対決
超絶レコードで変則二冠馬に 164

2004年 皐月賞 ダイワメジャー

ハイペースを先行・後続突き放した
4戦1勝の10番人気馬 172

2004年 天皇賞・春 インングランデイレ

スタミナ×スタミナの配合馬が見せた
「アメリカまで走っても」縮まらぬ差 178

2004年 オークス ダイワエルシエーロ

妊娠中の母を目にした3年後
GI馬に輝いた胎内の仔 184

2004年 マイルCS デュランダル

定位置は最後方、信念は大外一気
蹄の弱さに苦しんだ名刀 190

特別編 インターナショナルS ゼンノロブロイ

古馬GI三冠達成！
父とともに応援した海外挑戦 196

競馬note 4 外国産馬隆盛の時代

日本競馬を盛り上げた「マル外」 202

年度別 GI戦線「激闘譜」&データ 203

おわりに 219

執筆者紹介 222

本書における競走馬の年齢表記は、特に断りがない限り、その時代の表記としています。各馬のデータは2021年8月末日現在のものです。

写真 フォトチェスナット、日刊スポーツ新聞社、アフロ、成瀬琴

第1章

世紀末霸王の快進撃

2000年

2000



テイエムオペラオー

史上2頭目のGI・7勝馬が
持ち合わせた「古き良きもの」

テイエムオペラオーほど、実績に見合う名声を得られていない馬はいないのではないかな。
GI・7勝、獲得賞金18億3518万9000円という数字は、近年になってアーモンド
アイやキタサンブラックに破られてしまったが、長きにわたり日本競馬界の金字塔であった。
4歳(旧馬齢表記で5歳)時の2000年には年間無敗の8連勝、うちGIを5勝。空前絶後の
記録を打ち立てながら、なぜか評価は今ひとつ。「名馬」や「史上最強馬」を選ぶランキング
の類でも、順位が振るわない。

少々古いですが、手元にある資料『ニッポンの名馬―プロが選ぶ伝説のサラブレッドたち』(朝
日新聞出版/2010年)を開いてみれば、なんと20位の低評価である。記者、識者、関係者な
ど競馬をよく知る120人のプロたちが第1位〜3位を選出し、1位≡3点、2位≡2点、
3位≡1点として集計したランキングで、オペラオーはたった「3点」を得るのみだ。

ちなみに1位はディープリンパクト(112点)、2位シンボリルドルフ(71点)、3位オグ

リキャップ（61点）。10年ほど前の企画なので近年の名馬は登場しないが、オペラオーの過小評価ぶりを確認するには十分すぎる内容だ。本文中の扱いも、17文字×12行のわずかな紙幅にとどまっている。

ドラマ性がないわけではない。セリのファーストコールで落札された1050万円の馬（竹園正繼オーナーに競りかけてくる者は一人もいなかった）が大活躍して18億円以上を稼ぎ出すという物語には夢があるし、当時、大旋風を巻き起こしていたサンデーサイレンス産駒とは真逆の個性も注目に値した。日本のスピード競馬では不利とされる重めの欧州血統。馬名も、社台系のスタイリッシュな響きとは違って昭和的な味わいである。また、岩元市三調教師と和田竜二騎手の堅い師弟関係も、リーディング上位のフリー騎手や外国人騎手へのビジネスライクな乗り替わりが増えつつあった当時において“人情嘶”として好意的に語られていた。

思えば、オペラオーの物語を紡ぐエピソードの数々には、時流に逆行するような「古き良きもの」が色濃く滲んでいたのだ。連勝を重ねて「現役最強」「国内に敵なし」と言われながら海外挑戦には目もくれず、国内での戦いに専念したこともその一端だろう。

こうした保守的なイメージに加え、レコードや大差勝ちといった派手なパフォーマンスとは無縁なレースぶりも影響して、オペラオーは「地味な名馬」と揶揄されるようになった。クラシック戦線で取りこぼしが多く一冠に終わっていること、古馬になってからも負かした

相手が同じような顔ぶれだったことなども低評価につながっている。

しかし、勝ち続けることの難しさを一番よく知っているのもまた、我々競馬ファンだ。オペラオーが00年に残した年間8戦8勝というパーフェクトな成績は、デュープインパクトも、シンボリルドルフも、ナリタブライアンも成し得なかった偉業である。

前年（99年）、皐月賞V、ダービー3着、菊花賞2着でクラシック戦線を終え、年末の有馬記念で初めて古馬の超一線級と相対し3着と健闘。1つ上である「最強世代」のグラスワンダー、スペシャルウィークの激闘に肉薄した。

この一戦でオペラオーは、これまで同じ世代のライバルからは得られなかった「何か」を得たのかもしれない。覚醒したかのように、翌00年は破竹の快進撃。京都記念、阪神大賞典で同期ナリタブロードとの勝負づけを済ませると、天皇賞・春から有馬記念までの王道GIを完全制覇してみせたのだ。そのすべてが1番人氣にキッチリ応える完璧な内容である。勝てば勝つほど他陣営からのマークが厳しくなるなか、当時23歳の若武者・和田竜二は、持ち前の度胸と、オペラオーとの信頼関係でそれを撥ね退けた。

春秋の天皇賞に、宝塚記念、ジャパンCと輝くタイトルを総ナメにして臨んだ有馬記念。挑戦者の立場だった前年とは違い、今度は「絶対王者」として迎え討つ立場である。

全馬が敵だった。絶好のスタートを切ったが、すぐに包囲網を形成され、前後左右にぴっ

たりと他馬が張りつく展開。馬群の奥に押しやられてしまう。勝負どころでも動くに動けず、直線に向いた時点でまだ馬群の最後方だ。中山の直線は短い。万事休す、か——。

否、ここからが本領発揮とばかりに、オペラオーはわずかな隙間を突いて脚を伸ばす。グイグイと馬群を割り、残り数十m。凄い気迫で前の馬を捉え先頭に立つと、競ったら絶対に負けない。オペラオーの勝負根性がここでも炸裂。外から迫るメイショウドトウをハナ差抑えてゴール板を駆け抜けた。秋のGIグランドスラムは史上初。20世紀の日本競馬は、ティエムオペラオーによる空前絶後の記録で幕を閉じたのだった。

さまざまなインタビュー記事を見ると、厩舎関係者は口をそろえて「賢い馬だった」「頭がよい馬だった」と語っている。派手さのない勝ちぶりは、まさしく賢さの表れなのだろう。レコードも、大きな着差も無用。何が「勝ち」なのか、どう動けば勝てるのか——オペラオーは、競馬の何たるかを完璧に理解していたのだ。

3歳時からオペラオーの強さを見出していた「ミスター競馬」こと野平祐二氏は、この有馬記念の後、自らが育てた名馬シンボリルドルフを引き合いに出してこう語ったという。

「こんなに凄い競馬をする馬は見たことがない。もはや、ルドルフを超えたと言われても私は反論しない」

誰がなんと言おうとも、名伯楽のこの賛辞が最高の勲章だ。

(五十嵐有希)



史上初の年間8戦無敗・GI5勝・秋古馬三冠完全制覇を遂げたオペラオー。

母ワンスウエドの7番仔だったティエムオペラオー。全妹である5歳下のピサノミライはJRA未勝利に終わった。300頭以上を世に送ったオペラオー産駒の特徴は晩成型が多く、7割近くがオペラオーの馬主である竹園正繼氏の所有となった。出世頭は障害重賞を3勝したティエムトップバズレ。桜花賞と秋華賞を制したティエムオーシャンは初年度からオペラオー産駒を3頭産んだが、JRAで勝利したのはティエムオペラドン（障害3勝）のみ。阪神JF優勝のティエムプリキュアとの間にできたティエムプレミアも3戦未勝利で引退。オペラオーはJRAの平地重賞勝ち馬を出せずに終わった。母の父としてはバゴ産駒のトップウイナーが現役のオープン馬だ。

ティエムオペラオー

性別 牡

毛色 栗毛

生誕 1996年3月13日

死没 2018年5月17日

父 オペラハウス

母 ワンスウエド(母父・Blushing Groom)

調教師 岩元市三(栗東)

生涯成績 14-6-3-3

獲得賞金 18億3518万円

勝ち鞍 皐月賞 天皇賞・春(2勝) 宝塚記念 天皇賞・秋
ジャパンC 有馬記念 京都記念 阪神大賞典
京都大賞典(2勝) 毎日杯

第45回有馬記念(GI)

芝右 2500m 晴 良 2000年12月24日 9R

着順	枠番	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	着差	人気
1	4	7	ティエムオペラオー	牡5	57	和田竜二	2:34.1		1
2	7	13	メイショウドトウ	牡5	57	安田康彦	2:34.1	ハナ	2
3	6	12	ダイワテキサス	牡8	56	蛸名正義	2:34.2	3/4	13
4	5	10	キングヘイロー	牡6	56	柴田善臣	2:34.3	1/2	9
5	7	14	アドマイヤボス	牡4	55	武豊	2:34.3	ハナ	6
6	8	15	アメリカンボス	牡6	56	江田照男	2:34.7	2.1/2	15
7	6	11	ステイゴールド	牡7	56	後藤浩輝	2:34.8	クビ	10
8	8	16	メイショウオウドウ	牡6	56	河内洋	2:35.0	1	12
9	2	4	ナリタトップロード	牡5	57	的場均	2:35.1	3/4	3
10	2	3	ホットシークレット	セ5	57	横山典弘	2:35.1	クビ	8
11	4	8	ユーセイトップラン	牡8	56	中館英二	2:35.2	クビ	16
12	1	2	マチカネキンノホシ	牡5	57	岡部幸雄	2:36.0	5	7
13	3	5	ジョービッグバン	牡6	56	山田和広	2:36.3	1.3/4	11
14	3	6	トーホウシデン	牡4	55	田中勝春	2:36.9	3.1/2	5
15	5	9	ゴーイングスズカ	牡8	56	芹沢純一	2:38.5	10	14
中	1	1	ツルマルツヨシ	牡6	56	藤田伸二			4

中山 9 R

16	8	15	14	7	13	12	6	11	10	黄	5	9	8	4	7	6	3	5
アルタナ輸入リワイール	サンデーサイレンス	カザンメ	アドマイヤボス	メイショウドトウ	ロケット	ダイワテキサス	スチーゴールド	キングヘイロー	ゴインクススカ	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル	マイネル
14	5	21	56	11	17	15	5	5	5	96	40	16						
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△						
関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西	関西						
56 阿 内	56 江田照	56 武 豊	57 安田康	56 蛇 名	56 後 藤	56 柴田善	56 岸 武	56 中 館	57 和 田	55 田中勝	56 山田和							
0000	63410	0000	7315	4113	0002	3008	2316	0010	11331	0201	5134							
鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明	鞍馬田明							
8.920	8.870	3.100	23.770	19.010	18.520	18.050	10.360	10.760	63.200	4.970	8.960							
22.750	20.850	6.330	50.300	49.035	63.230	45.400	29.613	26.585	114.827	12.790	24.045							
松本好雄	近藤利一	松本好雄	大和商事	社台RH	浅川吉男	永井啓武	アサヒC	竹園正樹	東豊物産	田口正子	田口正子							
1.46.0	1.46.0	1.47.0	1.58.5	1.57.7	1.58.1	1.58.6	1.50.5	1.48.1	1.55.6	1.49.8	1.46.9							
1.59.4	2.00.7	2.01.2	2.34.9	2.35.6	2.32.6	2.32.9	2.00.3	1.59.6	2.09.6	2.09.6	1.58.7							
2.15.4	2.34.6	2.34.9	2.35.6	2.35.6	2.32.6	2.32.9	2.32.5	2.32.9	2.37.2	3.04.7	2.13.9							
長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車	長安重車							
1201	0002	1011	2311	1330	3101	0010	3313	4300	6411	1110	0310							
0200	0110	0110	3220	2024	8420	1210	1200	0000	2010	2030	0110							
0100	0211	0100	1010	3022	5332	0220	2020	1100	3010	0000	1100							
1401	2131	1000	0100	8662	14332	4120	11330	15532	1000	1000	0100							
5京12.7	1東2.5	3日東4	2中2	123.5	3中3.7	2日東2	5中12.9	1中1.2	3日東3	5中12.6	2中2.0							
2京13.2	3日東4	3日東4	2中2	2中2	2中2	2中2	2中2	2中2	2中2	2中2	2中2							
1.46.7	2.00.7	2.00.7	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1	1.59.1							
57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14	57 鹿田14							
11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468	11.23.468							
12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703	12.11.703							
1京1.51	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7							
1京1.51	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7							
1京1.51	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7	2中2.7							

日刊スポーツ新聞社

数々の記録がかかった、緊迫の一戦

ここまで7連勝中だったティエムオペラオー。年間無敗で、天皇賞・春、宝塚記念、天皇賞・秋、ジャパンCを制覇するなど、圧倒的な戦績を残していた。原口厩務員の「JCより少し落ちる」というコメントがあったものの、レースが始まると現役最強馬としての圧倒的な強さを見せつけた。コラムではタレントのさとう珠緒さんが「スティがきたら超うれしい」とコメント。



キングヘイロー

批判を浴びながらのGI挑戦
ついに手にした王者の二文字

スプリントのGIレースを制するのに必要なものとは何だろうか？

圧倒的なスタートダッシュ、爆発的な末脚、絶対的なスピード…答えは様々だろうが2000年の高松宮記念に関して言えば、「決してあきらめない心」だったように思う。

それまでの5月開催から3月の開催へと変更されて最初の年となった第30回の高松宮記念。戦前の下馬評では前年のスプリンターズSを直線一気の末脚で突き抜け勝利したブラックホークと、天賦の才とも言えるスピードでアベイ・ド・ロンシャン賞(仏)を制したアグネスワールドの一騎打ちと目され、その他のメンバーも当時のスピード自慢が続々とエントリーしていた。ただ1頭の場違いな馬を除いては――。

その「場違いな馬」とはキングヘイロー。スプリンターズSでも3着に入っただけに決して短距離戦が初めてというわけではなかったが、彼のキャリアを振り返れば、なぜこのレースに出ているの？ という印象は否めなかった。

キングヘイローの父は欧州最強馬と称されたダンシングブレーヴ、母のグッバイヘイローはアメリカでGⅠ・7勝を誇る世界的な良血。クラシック戦線での活躍はもちろんながら、GⅠをいくつ勝つのだろうと将来を嘱望された。実際、デビューから3連勝で東京スポーツ杯3歳Sを制したときはクラシック候補生として大いに注目を集めていた。

ところが、4歳時はまさかの未勝利。皐月賞で2着に入った以外はこれといった結果を残せず、マイル路線へと予先を変え東京新聞杯、中山記念で2連勝を飾った5歳時もGⅠ勝利を期待されたが、2番人気に支持された安田記念で11着に大敗。燃えるような闘志がレースでは空回りすることが多く、キングヘイローは再び勝ち星から遠ざかり、気が付けばGⅠは9度挑んで未勝利のまま。6歳の年明け初戦はフェブラリースから始動したが、初ダートの影響は大きく1番枠から動けず、見せ場ゼロの13着に大敗。世界的良血馬にGⅠを勝たせてやりたいという思いから生まれた「距離も馬場も問わない」という坂口正大調教師のチャレンジは、識者やファンから「節操がない」と非難を浴びたほど。

この高松宮記念でも4番人気に推されたが、オッズは12・7倍と上位のスプリントGⅠ馬からは大きく離されたものだった。

スタート直後、アグネスワールドが逃げの体勢を取る中でメジロダーリングとダイタクヤマトが競りかけ、その外をブラックホークが追いかけるという展開に。キングヘイローは出

脚がつかず後ろから6頭目というポジションニング。この馬独特の首が高いままの走り、前を必死に追いかけていたが、やはりスピードの絶対値を競うレースではどうしても遅れてしまふ。このまま直線に入って追い込んできても、キングヘイローは結局届かず3、4着がいいところ。すでに勝負が決まったところですごい脚を使って飛び込んできて、レース後に識者から「惜しかった」「負けてなお強し」という評をかき集めるだけ——多くのファンはそう思ったことだろう。

ところが、この日のキングヘイローは違った。スタート直後から鞍上の柴田善臣が終始押し通したことで、いつもはレース終了直前でないと火がつかないエンジンが直線に向かうころにはもうフルスロットルに。先行争いが激しくなったことで上がったペースもこの馬の追い風となった。それでも首はいつものように高いままで、小回りの中京競馬場に戸惑ったのか、どこかきこちなくコーナーを回っていくところが不器用なこの馬らしくもあった。

最後の直線、先行したアグネスワールドが早めに先頭に立ったところに内をスルスルと抜け出してきたデイヴアインライトが迫り、スプリンターズS同様に外からブラックホークが伸びてくるという具合に先頭争いは目まぐるしいものになったが、キングヘイローはブラックホークよりもさらに外から迫った。直線で猛然と前を追う姿は決して場違いな存在ではなく、まさに王者の走りそのもの。一度火が付けば決して止まることのない世界レベルのエン

ジンを持つ彼はゴール寸前にディヴァインライトをギリギリ差し切って先頭でゴール。

生まれながらにしてG I勝ちが約束されていた世界的な良血馬が、ついにそのタイトルを掴んだ。

キングヘイローがゴールした瞬間、坂口正大調教師は人目をはばかりことなく号泣した。これだけの良血馬を預かりながら、クラシックどころかただの1つもビッグタイトルを取ることができなかったことによる後悔や焦り、そして「節操がない」と非難されてまで続けてきたG Iレースへのあくなき挑戦が成就した喜びと安堵：言葉にならないたくさんの思いがこの涙から痛いほどに伝わってきた。

この勝利を機に、キングヘイローはG Iタイトルを積み重ねると思いきや、6戦して未勝利。ラストランとなった有馬記念ではレースが終わる直前にエンジンに火がつき、猛然と追いついて勝ち馬テイエムオペラオーから0・2秒差の4着。上がり3ハロンの36秒0はメンバー最速だった。最後の最後まで掴みどころがないまま、キングヘイローはターフを去った。

ポテンシャルは日本競馬史上でも屈指のものを持っていたながら、その才能をどこか持て余していたキングヘイロー。

もしかするとあの高松宮記念は、愚直なまでにG I制覇をあきらめなかった陣営と不器用なキングヘイローへ、競馬の神様が贈ったプレゼントだったのかもしれない。

(福嶋弘)



大接戦となったゴールの瞬間。GI出走11戦目で念願のタイトルを獲得した。

種付け料の安さもあり引退後は1319頭の産駒を輩出。出世頭は高松宮記念とスプリンターズSを制したローレルグレイト。カワカミプリンスはオークスと秋華賞の二冠を制覇した。またダートでもメーディアがJBCレディスクラシックを、キタサンミカヅキが東京盃と東京スプリント競走（ともに大井）を勝つなど、距離や馬場条件を問わない活躍をしている。母父がサンデーサイレンスの父 Halo であることからサンデー系牝馬との配合では Halo のクロス^{*}が発生、該当血統馬であるダイメイプリンセス（母父ダンスインザダーク）は短距離重賞2勝を挙げる活躍を果たしたが、ノーザンファームの生産馬はシャトーブランシュなど少数だった。

*** クロス** インブリード＝近親配合。血統表の数代前に同じ馬が重なっていること。
3×4の配合は「奇跡の血量」と称される

キングヘイロー

性別 牡

毛色 鹿毛

生誕 1995年4月28日

死没 2019年3月19日

父 ダンシングブレーヴ

母 グッバイヘイロー(母父・Halo)

調教師 坂口正大(栗東)

生涯成績 6-4-13

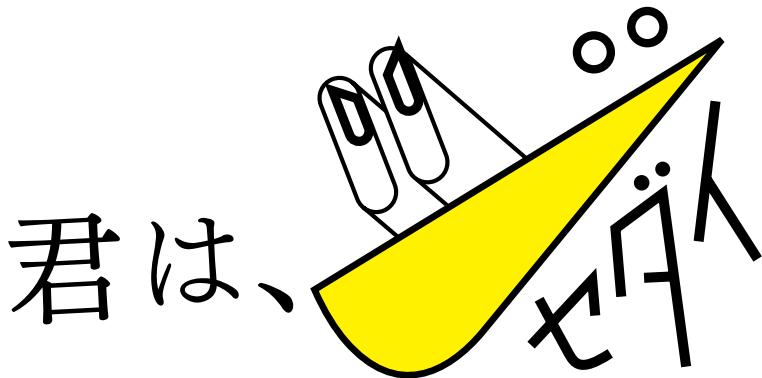
獲得賞金 獲得賞金 5億26万円

勝ち鞍 高松宮記念 中山記念 東京新聞杯 東京スポーツ杯3歳S

第30回高松宮記念(GI)

芝左1200m 曇 良 2000年3月26日 11R

着順	枠	番	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	着差	人気
1	7	13		キングヘイロー	牡6	57	柴田善臣	1:08.6		4
2	4	7		ディヴァインライト	牡6	57	福永祐一	1:08.6	クビ	8
3	3	5		アグネスワールド	牡6	57	武豊	1:08.7	クビ	2
4	8	16		ブラックホーク	牡7	57	横山典弘	1:08.7	ハナ	1
5	2	4		トキオパーフェクト	牡6	57	岡部幸雄	1:08.8	1/2	9
6	6	12		スギノハヤカゼ	牡8	57	田島裕和	1:08.8	クビ	7
7	7	14		マイネルマックス	牡7	57	勝浦正樹	1:08.9	1/2	12
8	2	3		ブロードアビール	牝7	55	武幸四郎	1:08.9	ハナ	5
9	4	8		トロットスター	牡5	57	後藤浩輝	1:09.0	1/2	11
10	5	10		タイガーチャンプ	牡9	57	山田和広	1:09.1	3/4	16
11	3	6		ダイタクヤマト	牡7	57	高橋亮	1:09.1	ハナ	13
12	1	2		タイキダイヤ	牝5	55	四位洋文	1:09.1	アタマ	6
13	8	17		スピードスター	牡8	57	吉田稔	1:09.3	1	17
14	1	1		メジロダーリング	牝5	55	吉田豊	1:09.4	3/4	10
15	5	9		シンボリスウオード	牡6	57	橋本広喜	1:09.4	ハナ	14
16	8	15		マイネルラグ	牡6	57	蛸名正義	1:09.8	2.1/2	3
17	6	11		ストーミーサンディ	セ8	57	鹿戸雄一	1:10.5	4	15



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!